

アトリエ 琉游舎 だより 236号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2026年7月29日発行

ほろほろと朝雨こぼす土用かな

子規

- 土用とは五行に由来する暦の雑節。立夏・立秋・立冬・立春のそれぞれ直前およそ18日間を指します。今年は7月20日から8月6日が夏の土用にあたり、丑の日は26日です。土用の間は、土の気が盛んになるとして、動土・穴掘り等の土を犯す作業や殺生が忌まりました。また「土用三郎」という夏の土用入りから3日目の天候によってその年の豊凶を占う風習があります。快晴であれば豊作、降雨であれば凶作になると、古くから農村部で信じられてきました。
- 子規の句は梅雨明け後のじっとりした暑さの頃、今頃の気候です。ただ子規の時代は、恐らく30度くらいの暑さだったでしょうから、現在のような猛暑、酷暑ではないはずです。土用のころの早朝はまだ気温は上がり切らないけれど、空気は湿り、細かな雨が屋根や葉先からぽつぽつ落ちていることで、暑さはいくぶんやわらぎつつも、それでも外に出る気にもなれない気分です。そんな折「ほろほろ」の語感がけだるさをほぐしてくれる気になります。
- 暑さしのぎ、夏バテには古来からいろいろな方法が試みられてきたと思います。しかし昨今の猛暑は風鈴、団扇、打ち水、土用のウナギなどでは到底追いつかない暑さ。唯々、クーラ頼りの、ひたすら涼しい部屋の中に閉じこもるしか、土用の夏を乗り切る方法はなさそうです。その間に、雑草は伸び放題、キュウリも油断するとたちまちお化けキュウリです。
- 夏は海や山での外遊びの季節だったはずですが、今や外の仕事やレジャーは危険なこととなりました。しかし道路の工事や草刈りは待ってはくれません。猛暑の中、車の誘導をしている方や、刈払機を振るっている方は、殆どが高齢者です。若者も子供の姿も外では見かけません。豊かな国だったと思っていた日本で、猛暑の日中に外で働いている人は、殆どが高齢者とは。豊かさとは何か、本当に日本は豊かなのか、考えさせられる土用の夏です。

お盆施餓鬼法要 8月9日（日）10時半から**写経会 9/6（日）13時半 読書会 8/18・9/8（火）13時半**

狂言綺語…ハングル酔いから醒めて

近くて遠い国、韓国を初めて訪れたのはソウル五輪から三年後でした。それから25回ほど旅行や仕事で韓国を訪問した理由は、ハングル酔いの心地よさや固有の食べ物、日本では失われてしまった猥雑感に魅せられたからだったのでしょう。私が6歳の時に開催された東京オリンピックが、戦後の昭和から豊かな昭和へと歩む契機となったイベントであったならば、ソウル五輪はまさしく韓国に於ける豊かな国への歩みの一歩となったイベントと私には感じられました。感傷的な言い方になるかも知れませんが、バブルがはじけて低迷期に入った日本のビジネスマンの一人として、韓国の猥雑なエネルギーに日本の失われた昭和を邂逅していたのかも知れません。当時、既にビジネス現場では韓国のパワーに圧倒されていたことは否めません。

先頃、約20年ぶりに韓国を訪れました。今回はツアーで釜山から慶州、全州、水原、ソウルへと韓国を縦断する四日間の旅でした。私が韓国を訪問していなかった期間に、k-popは世界の音楽シーンを席卷し、韓ドラは日本女性の心を掴んでいました。今や、半導体、電子機器、自動車、エンターテインメントなど幅広い分野で世界をリードするような国が、以前の韓国と同じ訳がないのは当たり前です。韓国は以前の私が知る、猥雑なエネルギーに溢れ、個性に満ちた愛すべき国では無くなっていました。一言で言えば洗練された先進国のひとつ、この国に行かなければ出会えない強烈な個性（時には他者が受け入れを躊躇するような）の、角が取れて丸くなった国になったように感じました。一旅行者の今回のささやかな見聞と、20年前に韓国に魅せられた時の印象とを比較することに説得力があるとも思えません。ただ、私は韓国はその他多くの先進国と同じ豊かな国となったことと引き替えに、個性と魅力を失ったのではないかと危惧しているのです。

かつてのソウルの国際空港、金浦に降り立ちターミナルに入ったとたんに旅行者を迎えたのは、強烈なキムチの匂いとハングルの洪水でした。新しい仁川の空港も同じです。国全体がキムチの国だったのです。でもそれが私に日本ではない他処にお邪魔しているという自覚を与えてくれるのです。今私は、異なる文化と風習を紡いできた国の上に立っているとの自覚です。キムチほどではないにしても、かつて仕事で欧米や東南アジアに行っていた頃は、多かれ少なかれ、ターミナルに降り立つ毎に、その国特有の匂いを感じたものです。日本も日本人が気づいていない、味噌や醤油、タクワンの匂いを外国の方は感じているかも知れませんが、気づかないのは、当の国民ばかりと言うことです。ところが、今回韓国に最初に下りた空港、釜山の金海空港では、拍子抜けするくらい無臭だったのです。街の中を歩いても飲食店に入ってもキムチの匂いはしません。食事には必ずキムチがついてくるのですが、量はわずか、辛さも熟成度もうまみも、味の複雑さもかつてのここだけのキムチではなく、個性のないキムチでした。これなら我が家で毎年作るキムチの方が遙かに美味しいと思ったのです。かつては私は韓国に行くたびにキムチの匂いを振りまく迷惑を省みず、白菜の他、あらゆる種類のキムチをトランクに詰めて帰ってきたのですが、今回は買う必要を感じませんでした。

キムチを代表にしましたが、他にいくらでもあります。かつては殆どの飲食店にはなかったマッコリ（日本のどぶろく）が、今はどこの店にもあります。しかも飲み易くジュースみたいな味。かつてはマッコリを飲める店を訪ね歩き、やっと見つけたそれは、大きな花瓶のような容器の口から発酵した泡がブクブクと出ていました。また郊外に出ると道端で老婆の何人もがしゃがみ込んで、瓶で自家製マッコリを売っていました。また東大門市場はスリやぼったくりの心配が無いくらい整然とした佇まいで、市場特有の危なさを一切感じません。以前は食べることを躊躇した道路を占領していた屋台も食中毒の懸念もなさそうです。偽ブランドは見かけはしますが、本物と偽って売ることも、店の最前列でこれ見よがしに売ることもありません。

食べ物や街の印象は感覚的なものなので、多分に個人の主観や思い入れが入るでしょう。しかし建物や道路の目に見える構造物には驚かされました。韓国縦断は高速道路を利用したバス移動です。日本の高速のように片側三車線や二車線、対面交通などのちまちました高速ではなく。米国並みの広い道路です。片側四車線が多く、東西南北と縦横に走っています。また高層マンションと思われるビル群はソウルや釜山だけでなく、高速で10分も走ると通過する中小都市にも必ず数棟は林立していました。東京を抜けるとこれだけ高層ビルが集中している都市を日本では見たことがありません。この二つの構造物を見るだけで、韓国は明らかに経済的に豊かな国であり、グローバルな国になっていることは間違いありません。そして国全体から受ける印象は、常に意識が外に向かっているという能動的思考です。実証的に語る能力はありませんが、例えば観光を経済資源として構築していく基本概念は、どうやってこの文化的遺産をかつて存在したありのままに残すかと言うことではなく、文化遺産をベースにどう再構築すれば観光資源として有効かということであるように思えました。王宮も城郭都市も寺も歴史的町並み保存地区も、どこもフォトスポットには人が列を作っていました。しかし私はその場所に宗教的な感慨や、かつての王侯貴族や庶民生活や文化を観ることはできませんでした。好意的に解釈すれば過去を保守するのではなく、未来を作るために過去をどう利用するかと言う考え方です。こう考えると政治的な言辞としてしばしば言及される、日本に対する過去の反省要求も理解できます。過去を材料にして未来にそれをどう生かすかという政治的欲求に基づく言辞なのです。

仏教は韓国経由で日本に伝わりました。しかし町には全く仏教の痕跡は感じられません。たまたま教会を目にしますが、それだけです。仏国寺にいきましたが、そこも信仰の場と言う雰囲気はなく、世界遺産の一つという印象です。韓国から日本には仏教や儒教も統一教会もやってきましたが、街から信仰の空気を感じなかったのは、私の観察不足なのか、それともそれが近くて遠い国の故なのか、未知の国韓国の旅報告でした。